

天
只

命下各部

官房記

會協第二五四號

多阿甲條

獅

入

造費下本也

多阿甲分二

淨減 校合

月日 主務

普三三三
七月六日

秘書官 (天)

聯帶

備

前

明治二十年六月六日

主務

大臣

次官

(天)

艦政局長

造船課長

決裁

會計局長

(天)

特製検査

鳥海船製造費増額請願

鳥海船製造費増額方本船製造人平即高

二月別紙甲号通願出依り及審査カ抑

通常請負性質之当初之カ價格ヲ定メ彼種其

價格ヲ相當トシ締約終了ノ上向來請負員

百十四

0257

0256

本
書
之
官
房
記
天
只

事業上何等ノ損益ヲ生スルモ任文者、於テ以テ之ノ
 係ヲ有セザルハ勿論ニシテ本艦製造請負ノ如キモ亦之
 レニ準スヘキモノト由ニカシク事實ヲ参照シ之カ実情
 ヲ斟酌スルトキハ亦敢テ之ヲ放下シ去ルニ忍ヒザル如アリ
 夫摩耶愛宕ノ兩艦ハ本艦ト其模型ヲ同シクシタ
 モノニシテ其製造費額多額ハ摩耶愛宕ノ額ニ於テハ拾
 ハ万六千四百圓ニシテ對シテ六万七千四百圓ノ増額ヲ
 要シニ愛宕艦ノ額ハ拾六万七千四百圓ニ對シテ五万
 圓ノ増額ヲ要セリ今此ニ艦ノ増額額ニ對照シ
 本艦製造費、多額ヲ要シ請負金高トシテハ實際
 不足ヲ生ラシム事實疑フ可カラザル義ト有之難
 ト由ニ本艦製造工事ノ精粗巧拙ニ至ツテハ摩
 耶愛宕ノ精且巧ナルト如カガレリ以テ全ク此ニ艦

0258

ト製造入費ノ同視ト難中場合ニ亦之ニ付諺歎
 書ハ難聞届者ヲ以テ却下シ而シテ多クノ撰
 採習致シタル箇所ニモアリ高方特別シテ強議
 ヲ以テ當初誘負金高拾方以テハ之ヲ移田ニ給
 四銭ヲ金拾方六千方ニ移田ニ更定シ
 解路局ヨリ本人、令達致シ度付ハ御高裁
 知

百廿五

甲省

0259

島海船製造費増額請願係人

勸定書

一金拾九萬五千五百圓 製造費増額

内訳

金拾六万四千八百三十拾圓九拾四錢 当初請願高

内

金拾万九千五百圓 通貨

金五万五千三百三十拾圓九拾四錢 銀貨代り通貨

是ハ銀貨五万圓ノ代り通貨

金五万圓ノ代り通貨

是ハ本船製造費増額請願係人

百十六

島海船

0260

の増金

高金三万九千五百四拾九圓五拾五錢 増額請願高

金三万九千五百四拾九圓五拾五錢

増額許可相成へり高

外金八千七百九拾九圓五拾五錢

請願高より減額

0261

外に工費の安しき場所を多量に加ふるに在りては、
 海軍省が製造用として海外に注文致し候備材料に代
 價別紙より詳細説明書を通り大に當初に該等料
 二超過の生じ候旨を知らすに、本省は、
 貴省にて金銀を換お給し変動係合し莫大に違算
 の次出しは、為りぬるに、
 材料及工費トシテ金銀に換ふに、
 の支出し又自費の経費を多量に、
 別紙より、
 當にシテ之レの總計スルに、
 九割トおぼせ、
 百四に對し金銀七千八百圓に、
 おぼし、實に、

可三度より竹編之坊に不熟疎其上海外に及ぶ終り并
 敷く取遣ししれ上からるる金銀為標札揚し割る又尋尋
 実三割除し如く餘り并外し其割り取し其家と外ナラス
 外在し取遣し目下其分人運持中切迫に及ぶ前達し
 雖も為るべき事と云々苦心死を以て写し其子存ふ是之理
 實所増敷此中其標札取らるる事ありて後之に及ぶ
 右標し其取比外家者實以て其標と云りし所は其取
 前除し如く取割製造事申し向て已に金銀取事あり
 千三百餘圓を支出し而して其取將來し其事と向て其
 ナリと金銀四萬圓の金銀ありし事并其後取らるる事
 し其取事と云し而して其取負残金取遣し而して其取事下
 其と云實際之取し其取事并其取候并其取事あり
 其候に於て其取事并其取事並其取事ありし終り其取事あり

0264

凡之困難ヲ惹起し候様ニ至至リ隨テ不能蒙進上ニ付而ノ
余合書ノ旨趣ヲ全フスルテ破ハサル之不幸ヲ事タシ候
ニ於テ實ニ容易ナラサル義トモ存存如旨何事ノ前
陳シテ防而洞察ト云々事ニ係ル畏濟其地
ノ現場ノ更ニ而臨核被下出候し而詮議ノ以テ致意
ノ様用此レ申シ候事及實表表
深保証人連印ノ旨此レ申シ候事以上

三十年三月二十一日 平路ノ字ニ

此レの再所ノ旨ニ申シ候事

宗胤公團

臨方ノ旨ニ申シ候事

全更本校所ノ旨ニ申シ候事

0265

海軍省解野白

海軍省

梅師持一

百九

海軍省

0266

並成或仰高敷也

但善第ニ九三〇号兵器局、由指令以前

於、由指令、軍艦ニ由件、外、同局同

之進言、對、此、成、原、也

案

伺之趣本艦、製造方ヲ決定セシ、十幾年普第

二九三〇号指令、以前、係、由、愛、宕、摩、耶、兩

艦、ト、同、型、ノ、モ、ノ、ニ、付、談、兩、艦、ニ、準、シ、可、取、調、事

但本件同様、手順ヲ以テ兵器費ヲ要スルモノハ

目下地ニ無之義ト心得ヘシ

明治十八年五月七日

参照

別第百二十九号

普第二九三〇号

新製御軍艦兵器準備、裁ニ付

余目御達相成度再上申

新ニ軍艦製造或ハ外国注文、御廟議御決定、上ニ当
局所轄兵器準備、為ニ必要、条件御達相成度旨明
治十年十一月兵甲第三百四十七号ヲ以テ上申仕往入第
三千四十四号ヲ以テ時々御達可相成、昔御指令
有之具後區々ニ涉リ候得共就中本年一月省中事
務取扱内規御達以來絶テ御達無之右ハ各廳管理
スル通常、事務ト異リ海軍ノ基礎タル大事件ニ
シテ經費豫算、整理上ニモ大關係有之候間将来

更ニ左ニ列記ノ條件御廟議御確定ノ際御特達相
成尔来製造ノ都合等ニテ御改定ノ件、其時々御
改達相成度此段特ニ上申仕候也

一艦体、四 艀底ヨリ下ノ帆桁ヲテシ要ス

一甲板大砲据付所、箇

一砲門、箇

一甲板横断、箇

一全縦断、箇

一火薬庫、箇

一彈藥庫、箇

一艦種、木艀カ 鉄艀カ 甲鉄艀カ

一大砲、種類、口径、砲長、負教、側砲カ、旋回砲カ、追撃砲カ

一端砲種類、口径、負教、野車臺ノ有無

一機砲種類 負教、播上機砲、有無

一艦等

一果組人員

一火藥庫、教 但二個以上ナレハ各庫装置、彈種 (例ニ何砲ノ彈)

一彈藥庫、教 但前全断

一端艇種類 負教を艘毎ニカールノ員教

一起工年月

一竣工年月

兵器局長

明治十七年十月

海軍大佐末川久敬

海軍卿川村純義殿

申出ノ趣ハ自今新艦ノ製造備及目錄ヲ差出スハ

百三十三

海軍省

0271

キ際ハ勿論尔来製造ノ都合等ニテ改定ヲ要スル由
ハ其考案書共其局ト連署スヘキトニ主船局、相違
置候條談決裁ヲ得テ主管ノ事項ヲ準備スヘキ義ト
可相心得事

但主管ノ事項ニシテ本又製造備系目錄ニ盡キサ
ル以部分ハ直チニ主船局ト協議スヘシ

明治十七年十二月廿九日

0272